

## タイ・ミン・フオン（ベトナム）



ADRC客員研究員としてベトナムから参りました、タイ・ミン・フオンと申します。現在、農業農村開発省ベトナム災害管理局（VNDMA）で、災害リスク管理と気候変動適応の専門家として働いています。2013年にケルン応用科学大学で水資源管理を中心とした技術・資源管理に関する科学修士号を、2007年に外国貿易大学でビジネス英語の学士号を取得しました。過去17年間、開発分野、特に水資源管理、農業・農村開発、災害リスク管理、気候変動適応の分野でキャリアを積み、コンサルタント、国家専門家、国家コーディネーター、開発プログラム・組織における政府専門家など、様々な役割を担ってきました。このような環境の中で、戦略的かつ結果重視のマネジメント、プランニング、参加型モニタリングと評価、政策対話の促進、コミュニケーション、情報管理などの実務経験を積んできました。

2018年からVNDMAに勤務しています。VNDMAは、ベトナムの災害対策における国の中心的な存在です。また、国家災害防止対策委員会の常設事務所でもあります。20年前に堤防管理・洪水制御局として発足したVNDMAの任務は、22種類ほどあるハザードをカバーするまでに広がりました。私はVNDMAの災害リスク管理と気候変動適応の専門家として、国際協力とコミュニティベースの災害リスク管理に積極的に取り組んでいます。災害リスク管理に関する国際的なドナーの資金提供によるプログラムやプロジェクトのコーディネートを担当しています。また、意識向上、能力開発、コミュニケーション活動の実施も担当しています。この分野で17年の経験があり、地域社会が中心的な役割を果たし、十分な知識とスキルを身につけることで、災害による損害や損失を最小限に抑えることができると理解しています。

日本はベトナムと同様に災害の多い国ですが、近代的な技術、優れた統治、効果的な国際協力によって、災害に対する強い回復力を示しています。また、日本は災害リスクを軽減するためにコミュニティベースのアプローチを促進する「防コミモデル」で有名であることも学びました。アジア防災センターの客員研究員プログラムのおかげで、私は日本がどのように災害リスクに対処しているかを目の当たりにする機会を持つことができました。このプログラムの活動を通して、私はコミュニティベースの災害リスク管理に関する最新の知識、スキル、ベストプラクティスを得ることができました。日本での研修後、ベトナムに戻ったら、新しい知識を同僚と共有し、学んだことを自分の国で実践することができます。

最後に、このプログラムを通して私をサポートしてくださっているADRCのスタッフの皆様に深く感謝いたします。